

『啓』を選ばせていただきました。

私が平成元年4月に育成会に入職して、早30年が経過しました。その間に、制度や法律、知的障がい者を取り巻く様々な環境の変化があり、その中で私自身も多くの経験をしてまいりました。この30年間を過去と比較すると、まだまだ十分とはいえませんが、様々な面で改善、前進してきたことを実感しています。

しかし一方、昔は想定されていなかった課題が明らかになり、その課題に対する対応が求められるようになってきました。高齢化や、重度化、福祉領域における職員等の人材確保の問題などです。これらの課題については今後、障がい福祉の関係者だけでなく、社会全体として向き合っていく事が必要だと考えます。

また、以前のような状態に戻るようなことがあってはいけません。その為には、社会に対して他人事ではなく我が事として、障がいについての理解を広め深めていく事が重要で大切なポイントです。大上段に障がい理解を振りかざして求めるのではなく、さりげなく街中の人に障がいのことを少しずつ知ってもらい、障がいの無い人もある人も当たり前で暮らしている社会、お互いがお互いを支え合えるような社会の土壌を醸成できるような活動を育成会として努力していければと考えています。

「啓」を使った言葉には、啓発、啓蒙、啓蟄などがあります。漢字の意味としては、「ひらく。教導く。」「あける。先ばらする。」「申す。(言うの謙譲語)」などがあります。今年度については特に、私自身の様々な経験から感じていることを育成会の職員や会員の皆様にも発信し、共有していただく中で、少しずつでも、社会に障がい理解を広め、深めていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

メープル

管理者 角森 佐岐子



新元号「令和」が発表され、新しい時代が平和で幸多いことを祈念する年度初めです。

昨年7月にグループホーム《メープル》の管理者を拝命し、後任者の育成を課題の一つに掲げ取り組んで参りましたが、働き手の不足は当法人でも深刻な状況の中、今年度も私が引き続き担当させていただきますことになりました。よろしくお願いいたします。

拓

港エリアに最初のグループホームを開所して20

年が過ぎました。この間、制度改革も度々あり、それに伴いホームの役割も大きく変化してきました。しかし、ホームで暮らしている人は同じで支援者はその暮らしぶりの変化に気付いていないのではないかと感じることがあります。

生活は日々の繰り返しで、私自身もそうですが大きな出来事が無いと変化に気づきません。利用者が自ら気付くことはとても難しいのが現実です。気付いた時には対処の選択肢が少なくなっていることもあるでしょう。

これから先の支援は、私たちが経験したことのない介護の分野にも及ぶことになりすし、人手不足への対策も講じなければなりません。

これまでのサービスを維持・向上させ、新しい展開を実現するためには、発想の転換が必要になります。先人が歩いた道ではなく、新たな道を切り拓く覚悟で臨んでまいります。そして、その道が共に歩む職員にとってやりがいがあり、喜びを感じられるものであってほしいと願っています。

福島育成園

管理者 長谷 弥朋



快

新元号(令和)が発表され、皆さま方も新たな気持ちで、新しい年度を迎えられたと存じます。

今年度も福島育成園の管理者として拝命いたしました長谷弥朋です。

私が福島育成園で勤めてきました4年のうちで、施設の大規模な修繕工事を行い、外壁とあわせて内装を一新し、施設設備の修繕や入れ替えなど補修を意識して取り組んでまいりました。あわせて、清掃の人員の見直しを行い、トイレや食堂を中心として施設内の環境美化にも努めております。また、以前から課題になっておりました、施設入所の居室の個室化もほぼ整ってきています。昨年度は日中活動である生活介護の定員100名を、作業室や活動スペースの大きさにあわせて80名の定員に変更し、少しずつですが福島育成園で過ごしていただく利用者の方々にとって、快適に過ごしていただけるようになって来たのではないかと感じております。

今後、法人理念であります、「障がいのある人が安心して心豊かに過ごせるように」を念頭に置き、福島育成園を利用されるお一人おひとりに寄り添いなが